酪酸混合飼料を用いた子牛発育促進対策：岡山県高梁家保　横内淳一郎、守内愛実

管内の肉用牛一貫経営農場から子牛牛群の消化不良や食欲不振対策の相談があり、検査を行ったところ、ルーメン内ガス貯留などの臨床症状から慢性鼓脹症が疑われた。ルーメンの発達が不十分であることが発症の一因と推察し、ルーメンの発達促進とルーメン環境の改善を目的に、酪酸を主成分とする混合飼料の添加試験を実施。酪酸混合飼料は 50g/日/頭をスターターに混ぜて 100 日齢まで添加。酪酸混合飼料添加前後の体測データ（体高、体重、胸囲、腹囲）を比較したところ、特に胸腹差が大幅に改善し、t 検定においても P 値が 0.05 未満となり有意な差を確認。この結果から、酪酸混合飼料の添加によりルーメンの発達が促進され、消化不良や食欲不振が改善し、子牛の発育促進に至っていると推察。今後、今回得られた知見を基に、和牛繁殖農家の哺乳期の飼養管理の向上を図る。